

社会を編む

エッセー ④



母と娘

編み物講師 斉藤 麗

こんにちは。暑い日が続きましたが、だんだん過ごしやすくなってきましたね。今回は最近起こった身の回りの出来事について書きます。私のいつも行く病院で自分と同じくらいの年代の女性がすごい大きな声で切々と自分の症状についてと事細かに説明していました。診察から出てきた彼女は、どうだと言わんばかりにそこにある麦茶をガチャンと飲み、飲み干しました。その話題を出したところ、母も一つ話題を提供してくれました。母がパークゴルフの仲間たちと居酒屋に行

ったところ、後ろに座っていた母娘二人がいっしょに娘が正座して「アーンがポイント、延々と娘が母親を叱咤していたこと。内容までは聞き取れないにしても、いいところの家の柄風で、お母様はおばあ様に対する態度がなっていないといった内容のようでした。その怒鳴りつけられている母親はうつろっているのか、まあ、そういうことはあるんでしょう。ものごとく要求する母の要望にええよとしてきた女性たちが、行き詰まり声をあげていっているんだと思います。が、そういう彼女たちは他人に対する要求も際限がないような気もするのには私だけでしょうか。現状に満足しないとか、そういった事があるかもしれない。現況に満足しよう。次々課題が見えてきて、こなさなければならぬと焦らない焦らない。周りに頼ることも必要なような気がします。

ここに大変興味を持たれ、演奏会があるならチケットを買いたい。」とおっしゃいました。中田氏は当時70歳代です。社長を退き、会長になっていらした。昔が高校、温厚なお人柄で、私の留学時代のエピソードを楽しく聞いてくださったことを懐かしく思い出します。その出会いの時に、チケットをお持ちする約束をし、後日、東京駅南口の丸ビルにお伺いしました。現在は、丸ビルも建て直され、かつての古きよき時代の事務所とは、大きく様変わりしていますが、当時の丸ビルは、「ビルディング」と表記されるのにおかしな(笑)、円形の建物で部屋には〇〇〇号と番号が付けられていました。中田氏は、この丸ビルに、このほか愛着がございました。秘書に案内されて、会長室に入ると、中田氏は、ほんとにお優しい微笑をもって迎えてくださいました。「私は、音楽には詳しくないが、音楽を聴くことは、とても好きなん

人物往来

2 芸術を愛した本物の文化人



深井 尚子

ピアノリスト・北海道教育大学 岩見沢校 准教授

1980年代の終わりはバブル時代といわれ、特に東京においては、常に一流のホテルでさまざまなパーティが開催されていました。そのような社会情勢の中、今ではなかなかお会いすることも難しい高い地位の方とお話

三菱地所 元社長 中田 乙一氏

海釣りも最近は様変わりしている。じっくり釣糸を垂れる太公望の光景より、短い竿とタモを背にしたルアー釣りが目につく。岩内海外防波堤の先端に、小学校低学年と

海辺の親子

石田 恵子

陽彩

る。それでも、その子は針を隠した疑似釣を誘うように巻き取る。また投げる。また巻く。前回の来た時、この子だけに釣果がなかった

です。」「言いつつ、私の音楽修行について、ゆつくりお話を聞かせてくださいました。そして「招待券を・・・」と私の申し出に、「演奏会は、きちんと代金を支払って聴きたいのです。それから社員にも聴かせたい。」と30枚ほどのチケットをその場で購入してくださいました。

その後、三菱地所系のロイヤル・パークホテルのフレンチ料理のお店に連れて行って下さり、最高級のお料理をご馳走になりました。そのデザイナーの席で、中田氏は、「芸術家は、本物のよいものを知っている必要はない。音楽だけではなく、他の芸術、美術、陶芸など、他のあらゆるよいものに触れてください。」とおっしゃいました。経済界では、大変有名な方で、社会的な地位の高い方ですが、中田氏は、高い教養を持ち、芸術を愛し、若き芸術家を育てる、本物の「文化人」だったと思います。

中田氏とは、その後も演奏会を通じて交流が続きました。彼は、儀礼的にチケットを買うのではなく、必ず、ご本人が演奏会に足を運んでくださいました。東京文化会館での演奏会とくは、介護の方と一緒に杖をついてまで、演奏を聴きにきて下さいました。中田氏は、「芸術家は、大切で重要な仕事で、その高みに到達するには、大変な努力と苦悩がある。それを私たち経済界のものが、手助けするべきだ。」という趣旨のことをよくおっしゃっていました。中田氏との思い出は、今でも私の心を温かいものにしてくれます。中田氏のおかげで、芸術家としての心構えが備わったと思っています。

中空知の郷土文芸

滝川氷原の会

山深く口まで咲く山桜 高橋 紀代
腫夜の思慕は森を迷えり 若木 英子
山桜孤独に耐えて咲き誇り 若木 英子
福寿草はこころと咲くハス停前 菅原 信子

アイヌ語

よもやま話

ヨモギの利用法

ヨモギはアイヌ語で「ヤ」といい、「もむ草」を意味します。ヨモギの葉をもむと一種独特の臭気を発します。アイヌの人たちは、この臭気に除魔力がある

葉の綿毛はモグサの原料

岩見沢市在住 山下 栄光



エソヨモギ=草餅の材料として有名だが、乾燥した葉は薬にもなる。葉の綿毛を集めたものがモグサである

用すると火の神が喜ぶという信仰があったと書物に書かれています。葉をよく揉んで葉の裏の毛を集めたものが、古来からあるお灸の原料です。ハチに刺された時には、ヨモギ、アカサ、スベリヒユなどの葉を揉んでつけると良いとい

雑記帖

民間会社なら、売り上げをあげようと思っただけ、値段を下げるだろう。それによってお客さんが増えたら、結果的に総売り上げが増えることになる。

国立競技場とコピー代

空知管内在住作家 不破 俊輔

だ。道立図書館や札幌中央図書館などは本の題名を器械に打ち込むだけでいい。おそろくその設備にお金のかかることだろうと思わく、その設備は言わなければ、利用者の身になって、考えれば、もっと簡便な方法があるはずだ。以上この些細な話だが、このように、このことがまたほかにあるような気がする。たとえば滝川市の施設使用料が高くなり、市が、この新十津川や深川でやった、という話はよく聞く話だ。施設使用料を高して使

われないでいたら、得するのは、楽するお役人だけだ。先日、姪の子供が頭大きなコブを作ってきた。ふれ愛の里の浴場で滑って転んだというのである。私の孫二人もこの床で転んでいる。私もまたこの浴場に入ることがあるが、ツルツルなので、床を歩くときは用心して歩く。設計が悪いのか管理が悪いのか知らないが、これなども市側のセシビリティが足りないのではないのか。というのは、あんな大きなコブを作っても、事務所の職員は特に慌てた様子ではなく、姪の目からみれば冷たいとも思われるような対応だったという。ふれ愛の里の経営がどうなっているか知らないが、市が関与している建物であることは違いない。サービスを側と受ける側とではこれほど意識の違いがあるというところを役所は知るべきだ。民間であれば自分の生存のためにはありとあらゆるサービスをやるだろうし、もちろん、その結果については自己責任である。しかし役所は相手はどうであろうと、自分の懐には響かない。つまり二千五百億円の国立競技場も二十億のコピー代も本質的には同じ問題なのだ。

滝川俳句会

終の地ときめし日月みどりの日 吉田とみを
梅雨晴間わが身縁の中にあり 内山 清子
花殻を拾ひのちの蝦夷の梅雨 家納千世子
今朝開く白ぼろんに風やさし 上田 栗子

蝦夷梅雨や地の胎動を恐れをり 児玉 佳恵
育てきしアスハラ最盛期を迎へ 小林みつ子
初夏や風満身にペナルギー 小川みづ子
遠来の客に豆飯炊きあがる 泉 惇子
苗売の電車たたく働く手 横山 守

一切の彩り濃くす蝦夷の梅雨 杉浦 裕子
蝦夷梅雨やふる里若き日のまに 横山 守
国会は戦の準備蝦夷の梅雨 横山 守
描きかけの絵の具の匂い蝦夷の梅雨 横山 守
ボケットに異国のコロン更衣 佐藤 敦子
蝦夷梅雨や屯田町といふ通り 武田 立子
何ひとつ母恋えられず朴の花 立子

地元記事満載です!
プレス空知
水曜と土曜
週2回お届け
1ヶ月1400円
気軽に問合せ下さい
☎0126-22-3700
岩見沢市9条東1丁目

配達員・集金人募集

随時、登録受付中です。

お問い合わせは ☎0126-22-3700 プレス空知まで